

麻生多摩美の森だより

麻生区市民健康の森 麻生鳥のさえずり公園

第 37 号 2013 年 1 月 31 日発行 発行 ; 麻生多摩美の森の会

発行責任者 ; 間野 洋 編集者 ; 木村 信夫

森の豊かさ、森づくりを次世代に 第 12 回植樹祭&収穫祭報告 実行委員長 木村信夫

当会と多摩美みどりの会の共催による植樹祭&収穫祭は 12 回目を迎えました。このイベントのスタート時は、植樹で「森を育てる」ことと、収穫物で焼き芋・豚汁など「森の恵みを楽しむ」ことがメインでした。やがて「木と友だちになろう」「森の恵みでアート」などをテーマに、木々の成長観察や作品づくりなどが加わり、さらに、地域の音楽家の協力で森に歌声が流れ、皆さんで楽しく交流する場として、内容を膨ませてきました。

また、いま多摩美の森は 1 年を通じて、子供たちや学生が体験・環境学習に来たり、森を活かした各種催しが行われるなど、自然と触れ合うかけがえのない場となっています。そこで、今回は、より多くの人びと、とくに若い世代に森づくりの輪が広がっていくことを願って、テーマを「森の豊かさ、森づくりを次世代に」としました。

開催日の 11 月 18 日(日)は、ほかにさまざまなイベントがあり、参加者は 160 名と例年より少なめでしたが、天候にも恵まれ、予定どおり進めることができました。

開会行事に続いて、「暮らしに役立つ植物たち」の観察。樹種はコナラ・エノキ・チャ・ミツマタ・クロモジなど。日本の生活文化には里山植物が多様に活かされてきたことを、改めて発見する機会となりました。続いて記念植樹は、昨年に続いてヤマボウシを 3 班に分かれて植樹。子供たちは協力し合って植えて、樹種名札に自分の名前を寄せ書きしました。花と実と紅葉を楽しみに、大事に育てていきたいと思えます。

続く収穫祭では、滝峠麻生区長からお励ま

しの言葉と乾杯の音頭をいただき、豚汁、焼き芋、茹で芋(里芋)など秋の味覚を楽しみながら和やかな宴となりました。

そして、今回のテーマのために新たに取り入れた「森への応援メッセージ」です。西生田中学校 1 年生の男女 7 名の豆記者が、8 月に森を訪れ、当会についてインタビューを行い、取材結果を 2 枚の壁新聞にして、10 月に学校で発表されました。そこで、植樹祭開催に当たり、豆記者さんたちを招待し壁新聞の内容の詳細を発表してもらいました(写真)。中学生ならではの視点でとらえた発表と、森へのかかわりの思いも語られて、多くの人が耳を傾け大好評で、感動を呼びひとこまでした。このことは“タウンニュース”の植樹祭の記事の中でも紹介されました。

最後は「森の音楽会」。今回も国際的に活躍中の地元の音楽家、荒瀬順子さんと、弟子の村田恵さんにマリンバ演奏をしていただき、みんなの大合唱が森を渡りました。

開催に当たりプログラムに、料理づくりに多くの方々のご支援・ご協力をいただきました。ここに厚くお礼申し上げます。



西生田小5年生 「森の環境体験学習」実施される 副会長 中谷一郎

5年生 153名の環境体験学習が、麻生多摩美の森で、10月23日(火)、24日(水)に、各日2クラスずつで実施されました。

学習内容は昨年と同じ1暮らしに役立つ植物たち、2樹木の二酸化炭素吸着量測定で、当会会員と自然観察指導員高橋英さんが、2日間延べ27名が指導に当たりました。

まず、間野会長が学習全体の説明と樹木の役割、葉の光合成のしくみ、樹木が吸収する二酸化炭素量の計算方法を分かりやすく話をしました。

1日目は生憎小雨が降ったり止んだり、途中まで、1は管理棟の中で、2は藤棚の下で傘をさしながらとなりましたが、子供たちは熱心に学習していました。

1暮らしに役立つ植物たち(写真)

7、8名編成の5班とし、ガイド各1名の指導で巡回。2と交代で2ランドしました。取り上げた植物は9種類。広場周辺のコナラ・クヌギ・エノキ・ホオノキ・マユミ・チャ、通路沿いのミツマタ・クロモジ(ワラビの根)、下の畑のキリです。

里山の草木がどれほど私たちの生活に活かされているかを学びました、その中で関心があったのは、茶と和菓子(ワラビ餅)とお菓子を食べる時の高級楊枝(クロモジ)の良い香り。お札など和紙(ミツマタ)のこと。日本の伝統文化も森の植物あってこそ。それら活かしてきた先祖たちの知恵の

説明にうなずいていました。

木のところには樹種名パネルと、実物・資料(コナラとクヌギでは炭、キノコ栽培の写真、クヌギの赤ちゃんドングリ)を置き、昨年作成のカラーリーフ「観察マップ」を使って説明しました。

2 樹木の二酸化炭素吸着量測定

例年通り、班別に樹木の幹回りを測定し、葉面積×吸着指数=C02量(kg/年)を算出し、人間が排出するC02何人分に当たるかを計算しました。

子供たち全員からうれしい感想文が届きました。紙面の関係上、一部を紹介します。

多摩美の森の会のみな様へ

先日はいろんな事を教えてくださりありがとうございました。わたしは教えてもらうまでは木に興味はありませんでした。でも、教えてもらった後はこの木は昔どういうふうに使われていたのかなと思えるようになりました。木は人間と逆に二酸化炭素をすって酸素を出してくれているからわたしたちは生きる事が出来るという事がわかりました。わたしたちはもっと木を大切に生きていきやいけない事がわかりました。 S・Mさん

多摩美の森の会の方へ

ぼくは今回この体験をしてとても木の大切さを感じました。ミツマタはおもしろくて皮を和紙にするというのにおどろきました。和紙だからワシワシしてると笑っていました。とても自然に近づくことができ、ここまで木は人間を生かしてくれているのだということがよくわかりました。このことを生かして葉1枚1枚生命力を感じながら木を大切に、それを見守っていきたいと思いました。ありがとうございました。 E・K君



カリタス女子中学校3年生が 「緑の活動支援」

会長 間野 洋

平成 24 年 12 月 17、18 日の両日、多摩区にあるカリタス女子中学校3年生、総勢 190 名が、クリスマス奉仕の一環として多摩美の森周辺で「里山整備」を行なった。初日は2クラス 77 名、2 日目は3クラス 113 名が参加し、作業時間は両日とも 13:30～15:30。



北斜面の下草刈り

整備区域は次の3つのゾーン、それぞれ指導員がつき、安全確認後作業はスタートした。

Aゾーン 多摩美ふれあいの森 西斜面。枯れ木・折れ枝の撤去、カントリー ヘッジ設置。指導は、当会・多摩美みどりの会の会員ほか2名。

Bゾーン 麻生区市民健康の森 北斜面。斜面の下草刈り、おもに篠竹(写真)。指導は、県森林インストラクター3名。

Cゾーン 多摩緑地保全地区(こもれびの会)。孟宗竹の間伐と枝打ち。指導は、人材バンクファシリテーター3名

Aゾーンでは数年間溜まっていた枯れ枝などが撤去され、ふれあいの森遊歩道の両サイドは見違えるように綺麗になった。

Bゾーンは2年前に下草刈りを行なった所であるが、篠竹が相当繁茂し、斜面の鎌での刈り取りは相当苦労されたと思う。

Cゾーンでは慣れない鋸を使っての間伐、枝打ちで悪戦苦闘、怪我もなく無事完了した。

女子生徒でも3年生ともなると相当の体力があり、見事な里山整備をやっていただきました。カリタス女子中学校3年生の皆さん、本当にご苦労さま、有難うございました。

菅地区特産「のらぼう」の栽培に チャレンジしています

畑の管理分科会 中谷 一郎

多摩区菅地区「菅のらぼう保存会」の高橋孝次会長のご好意で、初めて「のらぼう菜」の苗 100 株を分けていただきました。高橋会長さんは多摩区の多数の小学校で、のらぼう保存のために教えておられ、川崎市農業技術支援センターでも講演されています、その忙しい中、「多摩美の森でも育てて地域の子供たちに見せたい」という私たちの思いを叶えていただきました。

のらぼうはトルコ原産で、日本には奈良時代、遣唐使がもたらしたとされ、大麦・小麦などとともにつられる冬野菜で、小松菜などアブラナ科の仲間です。菜種油採りや薬草として使用され、菅地区に伝わったそうです。高橋さんから畑で実際に、土の深さ、作間・株間などの指導を受け、後日定植しました(写真)。寒肥も3回はやるようにしたいと思います。

のらぼうは今、1月14日の大雪と寒さの中、葉の緑色をグンと濃くし、根を深く張り体力をつけて春を待っています。

2～3月から花茎(とう)の収穫が可能で、1株で5回くらい収穫ができるそうで、楽しみにしていますが、さてどうでしょうか。また花が咲きタネが採れるのも楽しみです。初めてのチャレンジなのに、欲張りすぎでしょうかね。ご期待下さい。



モロッコはこんなところだった 中村 浩

機上から見ると、眼下には一面に緑の畑が広がっていた。

砂漠の国なのに旅行中に雨の日が4日あった。3回はお湿り程度であったが、1日はバケツをひっくり返した様な雨が数時間続いた(2月は雨季だったようだ)。カサブランカ空港の到着ロビーは国際線も国内線も一緒に、国内線で到着しても入国審査カウンターの前を通り、警察官にチェックされ荷物を受け取り税関の前を通らなければ出られなかった。

イスラムでは、猫は清潔、犬は不潔である。猫を触っても手を洗う必要はないそうである。なぜなら、猫は頻りに手足や顔を洗っているからとこと。店先では猫が商品の上で昼寝をしているのをよく見かけた。肉屋のカウンターに、ラクダの頭や羊の頭が置いてあった。

鶏や兎は生きたまま販売されていた。コルクの木の実、形はドングリと同じだが、長さが5cmほどある。料理に入れたり、焼いてそのまま食べたりするそうだ。味は天津甘栗のように甘かった。しかし、虫食いが多かった。

スパイス店の前を通ると、しばし鼻水が止まらなかった。

昔からの家では、ドアにノッカーが2つある。小さい方は女性用、大きい方は男性用で、音に合わせて出迎える人(男女)を変えるためとのこと。

どの家も3-4階建てで、外装は土壁で窓がなく、ドアを入ると薄暗い小さな土間で、薄暗い中を右に曲がり左に行くと吹き抜けの中庭に出る。中庭には噴水やプールなどもあった。床は一面綺麗なタイルが貼られ、四方の壁はレパノン杉に繊細な彫刻が施されていた。これは貧富の状態が外観、出入り口からいっさい判らないようにし、泥棒の侵入を防いでいるとのこと。

屋上は胸の高さくらいの土の壁で囲われ、物干し場となっている。屋上から眺める周りの家々も白い土の屋根しか見えない。全ヨーロッパ諸国の衛星放送が受信できるそうで、いくつものパラボラアンテナが設置されていた。

今後の活動予定 副会長 中谷 一郎

2013年(平成25年)最初の会報です。森づくりを次世代につなぐため、地道に楽しく、汗を流したいと思います。

4月27日(土)は第11回通常総会です。ぜひご参加ください。

今後の活動予定は下記の通りです。

2月 2日(土)アズマネザサを覆う蔓の除去、幹事会

2月 6日(水)西生田小3年生「冬の森の観察」

2月 9日(土)麻生プレーパークへの協力

2月17日(日)樹木の剪定、カントリーヘッジの整備

3月 2日(土)アズマネザサを覆う蔓の除去、下草刈り、幹事会

3月 9日(土)里地里山フォーラム in 麻生

3月17日(日)春の植物観察会(予定)

4月 6日(土)畑の整備、清掃、幹事会

4月21日(日)総会準備、ゴミ収集、清掃

4月27日(土)第11回通常総会、

会場:区役所4階会議室(予定)

時間:午後3時半~5時

5月 4日(土)樹木手入れ、畑整備、幹事会

5月19日(日)サトイモの植付け、樹木の手入れ、清掃

この間の補助作業日は第2、第4水曜日です。

会員募集中です 一度見学にお出で下さい。里山の楽しさを親子で味わってください。年会費1,000円。

麻生区のホームページで、市民健康の森を紹介、本紙のバックナンバーも見られます。

<http://www.city.kawasaki.jp/asao/page/0000028128.html>

皆さんの投稿、感想をお寄せ下さい。

<問合せ・連絡先>

間野 洋 044-966-7233

mano-h@jcom.home.ne.jp

木村信夫 044-954-7855

kimura-yatsu@nifty.com